4. 日露関係のエピソード（1）皇太子ニコライの来日

参考文献：保田孝一『最後のロシア皇帝　ニコライ二世の日記』（朝日選書、1990 年）
尾佐竹猛『大津事件』（岩波文庫、1991 年）

4.1. ニコライ 2 世の日記

ロシア帝国最後の皇帝ニコライ 2 世、51 冊の日記を書き残す
1882 年（14 歳）から銃殺される 3 日前の 1918 年 6 月 30 日（西暦 7 月 13 日）まで

ニコライ 2 世の日記はモスクワのロシア連邦国立アルヒーフ（史料館）に保存されており、1983 年 9 月（当時はソ連中央国立十月革命史料館）、外国人としてはじめて日本の保田孝一岡山大教授が閲覧した

保田孝一は『最後のロシア皇帝　ニコライ二世の日記』を書き、ニコライ 2 世が「大津で津田三蔵に切りつけられたことを根に持ち、日本人を『猿』と軽蔑し、日露戦争を仕掛け、日本を征服しようとした」人物であったとの俗説を覆すニコライ 2 世像を描き出した

4.2. ニコライ 2 世（当時 22 歳）の訪日

4.2.1. 旅程（1890［明治 23］年 11 月 4 日〜1891 年 8 月 16 日）

軍艦「アゾフ」号で、オーストリアのアドリア海に面するトリエステ港［現イタリア］を出港

エジプト
　ナイル川をアスワンまで遡行
スエズ運河
インド
セイロン（現スリランカ）
シンガポール
ジャワ島
サイゴン（現ホーチミン）
　ショロン（ホーチミン郊外）
バンコク
香港
広州［コワンチョウ］
　揚子江を漢口［ハンコウ］（現武漢［ウーハン］）まで遡行
長崎（1891 年 4 月 27 日〜5 月 5 日）
鹿児島
神戸
京都
大津（5 月 11 日）

4.2.2. 日本旅行の詳細

4月25日　「私の心はずっと以前から長崎にある。予定より2日前に長崎に到着できるのがうれしい。そこでの停泊はすばらしいという話だ」

4月26日　「日本旅行の準備のために『お菊さん』を読み始めた」

ピエル・ロティ著『お菊さん』（1887年）＝淡い恋愛小説で、これを読むと長崎が好きになるといわれる

4月28日　「12時に有栖川宮威仁［たけひと］親王が艦にやってきた。彼は1889年にガッチナ宮（ペテルブルグ郊外の離宮）を訪れたことがある。好感の持てる人物だ」

有栖川宮威仁親王は日本側接待役

「長崎市の家屋と街路はすばらしく気持ちのよい印象を与えてくれる。いたるところ掃除が行き届き、こざっぱりしていて、彼らの家の中に入るのが楽しい。日本人は男も女も親切で愛想がよく、中国人と正反対だ。とくに驚いたのはロシア語を話す人が多いことだった」

この日ニコライは7軒の商店を訪れた。江崎鼈甲店にはそのときにニコライが名刺代わりに与えた「善人江崎栄蔵殿　皇太子ニコライ」と署名のある肖像写真が現在でも残っている。また当時の長崎はロシア東洋艦隊の越冬地で、同市稲佐にはロシア人将校・水兵の家があり日本人妻、使用人、出入り商人など、ロシア語を話す日本人が多くいた。稲佐の悟真寺は現在でもロシア人墓地として有名。このロシア人墓地には、ゴルバチョフ・ソ連大統領が1991年に訪日した際、訪問した。悟真寺とロシアの縁はプチャーチン来航時の宿泊先だったことに起因

「昼食の後に右腕に竜の入れ墨をする決意をした・・・竜は見事に彫られており、腕はまったく痛まなかった」

5月4日　「稲佐村のゴリツィン（長崎駐留将校）宅へ直行した。そこで何人かの将校の奥さん（日本人妻）と知り合いになった。・・・彼女たちの間に座る。彼女らはみなロシア語をしゃべり非常に好感が持てる」

その後（日本側その他の史料によると）、ロシア仕官寄宿所、福田半造方に行き、そこで芸舞妓5名を招き、5日午前4時帰艦。

5月6日　鹿児島の島津忠義邸を訪問。忠義の贈呈した薩摩焼の壺がエルミタージュに残されている。島津忠義・忠重親子はその後も日露交流を推進

5月9日　神戸入港、午後6時過ぎ、列車で京都着

5月11日　大津で津田三蔵巡査に切りつけられる

「有栖川宮殿下その他日本人の茫然とした顔を見るのはつらかった」

5月13日　「日本のものはすべて4月29日（大津事件のあった日の露暦）以前と同じように私の気に入っており、日本人の一人である狂信者がいやな事件を起こしたからといって、善良な日本人に対して少しも腹を立てていない」

明治天皇が東京から急遽京都の宿舎に見舞いに駆けつける

5月16日　日本旅行（上京）を中止し、ウラジヴォストークへ直行せよとの本国からの命令が来る

5月19日　明治天皇、アゾフ号に行幸。この日までに多くの市民からの見舞いが届く。離日

4.3. ニコライ2世と日露戦争

開戦直前の日記には日露関係についての具体的記述が少なく切迫感がない（政治から切り離されていた？）

開戦時の日記　1904年2月9日「日本軍の厚顔な行為」津田を狂人と書いた以外のもう一つの日本人に対する罵りの言葉